

大宮駅グランドセントラルステーション化構想 整備方針(案)

平成 29 年 3 月

1) はじめに

◆構想の策定にあたって

構想策定の背景

「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」の策定から6年が経過

- ・市街地再開発事業や大宮区役所新庁舎整備の計画、氷川緑道西通線の進捗等、まちづくりが進展
- ・北陸・北海道新幹線の開業や、上野東京ラインの開通などにより、交通結節点としての存在感が高まる

一方、我が国の社会経済潮流は大きく変化するとともに、大規模災害への対応力が求められている

- ・人口減少下において、「対流促進型国土」の形成に向けた取組が必要である
- ・首都直下地震をはじめ、災害への一層の対応力が求められている

その中で、「大宮」が国の計画等に位置づけられた

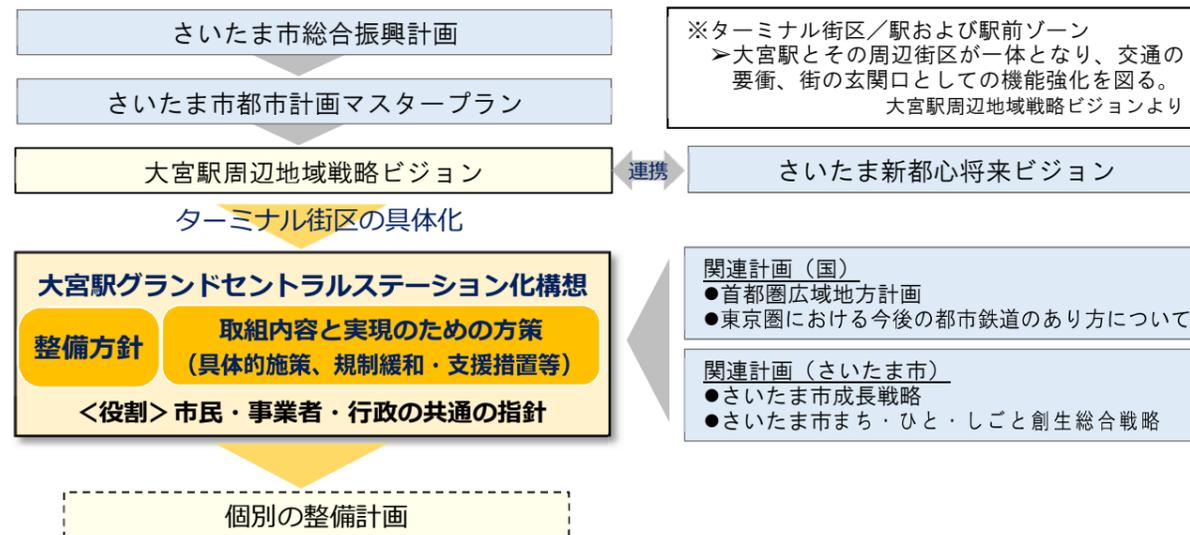
- 【首都圏広域地方計画】スーパーメガリージョンを支える対流拠点としての位置づけ
- 【東京圏における今後の都市鉄道のあり方について】広域的な交通ネットワーク拠点駅プロジェクトとしての位置づけ

目的

大宮駅グランドセントラルステーション化構想は、「首都圏広域地方計画」で重要視している眼前の「運命の10年」を逃すことなく、東日本の玄関口である大宮、ひいてはさいたま市のプレゼンスを飛躍的に向上させ、日本の誇るべき都市として地位を確立させていくことを目的に策定する。

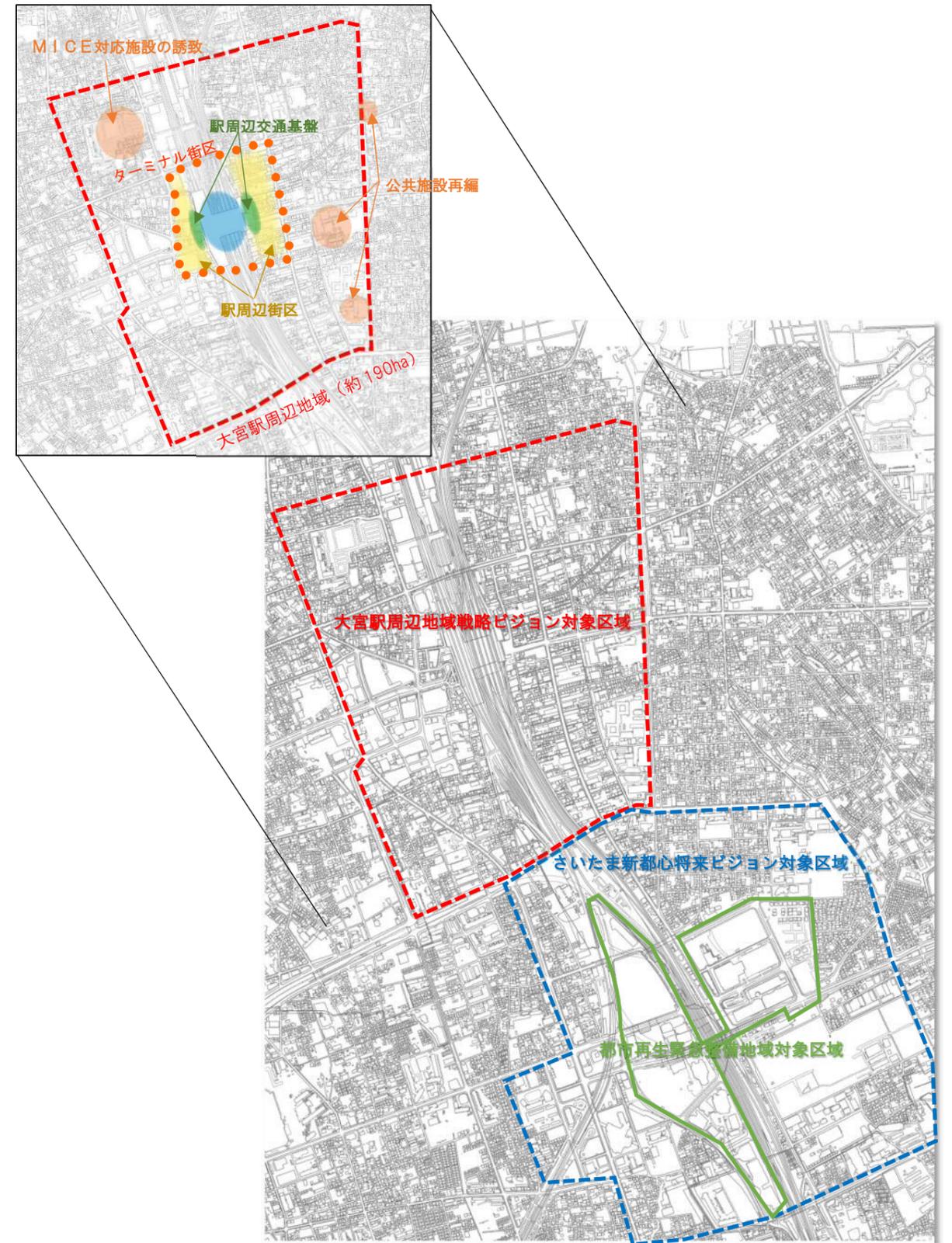
◆構想の位置づけ

本構想は、「大宮駅周辺地域戦略ビジョン（H22.5）」にある、「ターミナル街区（※）」（駅とその周辺街区）のまちづくりの具体化を図るため、「整備方針」や「取組内容」、「実現のための方策」等を描き、市民・事業者・行政等が「個別の整備計画」をつくる際の共通の指針として位置付けるものです。



◆対象範囲

本構想は、「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」の検討対象である大宮駅周辺地域（約190ha）のうち、駅、駅周辺交通基盤、及び駅周辺街区からなる「ターミナル街区」を概ねの構想の範囲とする。
 なお、検討にあたっては、公共施設再編や周辺のまちづくり等と連携して進めていく。



全体の流れ

大宮の果たすべき役割 — 国や社会経済の動きからみた、大宮の役割 —

「東日本の玄関口」として、東日本全体の発展を牽引する役割

- ▶ 各地のヒト・モノ・情報が交流・連携し、イノベーションを創出させる
- ▶ 東口の交通基盤の再編・強化や駅機能の高度化等、交通結節機能を充実させる
- ▶ 対流拠点機能の強化とビジネス機能の集積を図り、東日本各地からの集結・交流機能を高めていく

東京一極集中に伴う日本経済のリスク軽減とともに、安心安全な市民生活を持続させる役割

- ▶ 東日本ランチ（支社）が集まるビジネス拠点であると同時に、首都圏のバックアップ拠点や広域的なリダンダンシーを持つ拠点としての役割を担っていく
- ▶ さいたま市の都心として、拠点機能を保持し続けられるよう防災性の飛躍的な向上を図り、安心・安全な市民生活を持続させる

多彩な地域資源や空間の良さを活かしながら、これからの働き方やライフスタイルを先導・提案し、市域全域に波及させる役割

- ▶ 居心地の良い路地に魅力的な路面店が建ち並び、ワクワクする空間を兼ね備えている
- ▶ ワークライフバランスが実現でき、新しい発想や斬新なアイデアが次々と浮かぶクリエイティブなライフスタイルやビジネスシーンにつなげていける
- ▶ 駅東西及びさいたま新都心等との回遊性をより一層高め、相互の連携を強化する

整備方針 — 目指す姿・取り組みの方向性 —

◆目指す姿1

「大宮に**来れば**できること」

◆目指す姿2

「大宮に**住めば**できること」

◆取り組みの方向性

将来像実現に向けた大まかな方向性

① ビジネス

ターミナル街区（以下、街区）周辺に集積した多様な都市機能を活用することで、ビジネスシーンの幅を広げることができます。

職住近接により最先端のビジネスに参画でき、新たなワークスタイルを手に入れることができます。

地の利を活かし、東日本の拠点としてのビジネス機能を集積させます

国内外企業の本社・支社機能や研究開発機能等、**拠点的な業務機能の誘致**に取り組んでいくとともに、ビジネス環境の向上を図るため、オフィス、ホテル、会議室等の供給を促進していきます。さらに、業務機能の集積を後押しするための規制緩和、財政支援、税制支援等を検討していきます。

② 東日本連携

魅力的な見本市や展示会が頻繁に開催されており、新しい発想や斬新なアイデアを得ることができます。

東日本各地で培われてきた文化や価値観に触れることで、豊かなライフスタイルを創造することができます。

新たな価値を創造する対流拠点機能を強化し、東日本の主要都市間と共存・共栄を目指します

東日本のヒト・モノ・情報の交流や企業活動の活発化を促進し、広域周遊観光ルートの玄関口として、東日本連携を促進する**対流拠点機能を確保・強化**するとともに、連携を踏まえた企業立地等の促進を図ります。

③ 商業

大切な人への贈り物を選んだりアフターファイブを楽しんだり、オン・オフに関わらず着飾って豊かなときを楽しむことができます。

高感度なショッピングや個性的な飲食店が連なる路地空間では、訪れるたびにワクワクを感じることができます。

地元商店や路地空間の魅力、拠点的な商業集積等を活かし、商都大宮を再生します

各地区が相互に協力・連携しながら、個性ある路面店・飲食店や路地空間の賑わいの創出、先進的・都会的な商業施設のリニューアル等を通して、**商業機能の拠点性を再生**していきます。

④ 地域コミュニティ

充実した都市機能に加えて、地域に根付いたお祭りや多様なイベントに参加して、楽しんだりすることができます。

大宮駅直結の保育園に子供を預けて働くことが出来るとともに、地域活動にも積極的に参加して自分のまちを自分で育てる実感を持つことができます。

都心の便利さと緑の近さがコンパクトにミックスされた上質な住環境を地域で育成します

ターミナル駅を擁しながらも自然・歴史を近くに感じることができる**大宮らしい都心居住を提供**すると同時に、地域によるまちづくり活動、祭りやイベント等の活動の活発化を促進していきます。

⑤ 公共交通・他モード連携

あらゆる交通網が結節している大宮を起点に、訪日外国人をはじめ誰もが国内・海外に移動することが容易にできます。

乗降しやすいホームや雨でも濡れない乗換動線が整備され、安全で快適に通勤・通学をすることができます。

東日本からの集結・交流機能を高める、更なる交通結節機能の充実を図ります

各地区と協力しながら、便利・快適、安心・安全な**交通基盤への再編・強化**を図るため、**駅前広場等において必要な広さと機能を確保**していきます。また、様々な支援制度を用いながら**大宮駅の機能強化**を図りつつ、**広域交通ネットワークの強化**も目指します。

⑥ 歩行者ネットワーク・たまり空間

大宮駅の東西を自由に往来しながら、上質な歩行空間や界隈性を感じる路地空間を楽しみながら回遊できます。

安心・安全な歩行空間や気軽に集える開放的な交流空間が組み合わせり、誰もが外出を楽しむことができます。

駅からまちへ人を惹きつけるとともに、まちからまちへの回遊機能を強化します

「大宮のまちに降りてみたい」と感じられるよう、鉄道等の**乗換客をまちへ誘導する工夫**を図っていきます。また、まちなかを快適に回遊できる**歩行者中心の移動環境の基盤を整**えていきます。

⑦ 道路ネットワーク

渋滞に巻き込まれることなく、快適にまちあるきを楽しむことができます。

自家用車に頼らない生活を送ることができ、週末には観光・レジャー等で高速道路等を快適に活用することができます。

おもてなし歩行エリアを実現するため、駅周辺に流入する自動車交通を抑制します

歩行者中心の人に優しい移動環境を整えるとともに、駅周辺における自動車の交通混雑を緩和するため、**ハード・ソフトの両面から自動車ネットワークの構築**を図っていきます。

⑧ 景観・環境

大宮駅から街区へ回遊することで、氷川の杜に培われた多彩な文化や歴史を感じることができます。

良好な都市景観が生活にゆとりやうるおいをもたらし、まちへの誇りと愛着を持つことができます。

大いなる宮居としての風格ある駅前景観を形成します

まちを訪れる人の記憶に残り、大宮を象徴するようなまちなみやデザインを意識して、**最先端技術が備わった環境に優しい空間を創出**していきます。また、大いなる宮と共生する自然エネルギーを活用していきます。

⑨ 防災

災害時でも速やかにビジネスを再開・継続することができ、駅前に整備された一時避難場所を活用することもできます。

街区や駅前における基盤整備に加え、高い防災意識のもと安心安全な生活を送ることができます

首都直下地震や都市型災害に対する強靱性を備えたまちづくりの推進を図ります

都市機能の更新と併せて**防災への強靱性を高める**とともに、災害時には多数の駅利用者や来訪者等の帰宅困難者が想定されることから、**大規模災害に備えた駅及び駅周辺**としていきます。

取り組み内容のイメージ

— 具体的にどこで何をするのか —

◆まちづくり

1. 都市機能

- ①さいたま新都心と一体となった拠点機能の強化
- ②各地区の特性を活かした都市機能の集積

◆交通基盤

2. 歩行者ネットワーク

- ①2本の東西軸による歩行者ネットワークの強化
- ②大宮らしさを活かした歩行者ネットワークの形成

3. 駅前空間

- ①交通ターミナルとして誰もが利用しやすい駅前広場の形成
- ②市民や来訪者が憩い交流することができる空間の確保
- ③東日本の玄関口に相応しい景観形成

4. 道路ネットワーク

- ①地区内に流入する自動車交通の抑制

◆駅

5. 駅機能

- ①鉄道利用に関する安全性と利便性の向上
- ②東日本の拠点としての広域交通ネットワークの強化

3) 大宮の果たすべき役割(案)

大宮の果たすべき役割(案)

① 国の動き ～国土づくりの方向性～

我が国では、本格的な人口減少社会の到来、異次元の高齢化、巨大災害の切迫等、国土づくりを取り巻く厳しい状況を前に、「国土のグランドデザイン 2050」や「首都圏広域地方計画」を決定し、国土づくりの方向性が見直しが行われてきたところである。

このなかで国は、「対流促進型国土」の形成、すなわち、多様な個性を持つ様々な地域が相互に連携し生じる地域間のヒト、モノ、情報の双方向の活発な動き<対流>を巻き起こし、その交わり、結びつきによってイノベーション(新たな価値)が創出されていく国土づくりを目指し、これを促進する交通ネットワークのあり方として、東京を中心としてヒト・モノ・情報が一極集中する「放射」ネットワークから、多様な都市が「多対多」でつながり、面的に対流することのできる「放射+環状」ネットワークへの転換を目指している。

これらの実現に向け、国では、北から南まで、地方と地方をつないでいく「地方創生回廊」を創り上げ、全国を一つの経済圏に統合することで地方に成長のチャンスを生み出すために、リニア整備による時間距離の劇的な短縮を契機とするスーパー・メガリージョンの形成を推進している。

一方で、30年以内に7割の確率で発生すると言われる首都直下型地震や気候変動による大規模水害等の巨大災害リスクが高まるなか、東京への過度な人口集中や、日本経済の中核を担う企業が東京に一極集中することは、日本経済全体にとって極めて大きなリスクも併せ持っており、国際競争に勝ち抜くための東京の機能向上と同時に、東京一極集中の是正も喫緊の課題と位置づけている。

さらには、急速に成長するアジアに対して、質の面であこがれに足る存在となるため、上質・高効率・繊細さを備え、より洗練された首都圏の構築を目指している。急激な人口構造の変化、特に労働力人口の減少が不可避とされるなか、既存インフラのストック効果の最大化による生産性の向上に加え、クリエイティビティ向上に寄与する「ゆとり」ある都市環境の刷新や、地域の自然環境、歴史・文化・伝統等のヒト、知識、情報等が交流、コラボレートするメルティングポット(るつぼ)のような役割を担う場や機会を設けることでイノベーションの創出につなげていくことが重要としている。

② 昨今の社会・経済の動き

国土づくりの方向性が示される中、国全体の成長を牽引する大都市については、都市再生緊急整備地域等の指定を受け、官民連携による都市再生が強力に推進されている。例えば、大阪市に開設された「ナレッジキャピタル」にみられるように、国内外の対流拠点となるイノベーション創出の場の形成が進められており、また、実際の対流という意味においては、東日本大震災からの復興を目指す東北圏で、東北6県の夏祭りを一同に集める「東北六魂祭」が2011年から毎年各県持ち回りで開催されている。さらに、アジアとの交流・連携を目指す九州圏では、日中韓11都市における環黄海経済圏の発展に向けた東アジア経済交流推進機構会議が開催される等、各地域の個性の交流・連携による広域観光の取組や、国の枠組みを超えた経済交流の取組が各圏域で進められている。

一方、毎年のように大規模災害が発生する中、民間企業等では、災害時に重要業務が中断しないことや、万一事業活動が中断した場合に短時間に重要な機能を再開させ、業務中断に伴う顧客取引の競合他社への流出、マーケットシェアの低下、企業評価の低下等から企業を守るための経営戦略(BCP)の策定に注目が集まっており、災害時においてもステークホルダーの安心・信用が得られるような取組が活発化してきている。

また、価値観の多様化や女性の社会進出、あるいは「第4次産業革命」とも呼ぶべきIOT※1、ビッグデータ、ロボット、人工知能(AI)等による技術革新が従来にないスピードとインパクトで進行している。産業構造や就業構造が大きく変化する中、仕事と生活の調和の実現を目指すワークライフバランスが重要視されており、会社以外の場所で働く「テレワーク」や会社員の兼業・副業等、「多様で柔軟な働き方」にも注目が集まっており、これを可能にする制度導入を国が民間企業に促す動きも始まっている。

さらに、経済活動を担う企業側の動きに目を移せば、いかに優秀な人材を集め、生産性を高めるかという視点から、「仕事とプライベートの両立」を掲げて東京都心から郊外部に本社を移転させ、職住近接の労働環境を実現する動きも現実に見られる。



ナレッジキャピタル

(資料：国土形成計画(全国計画)リーフレットより)

東北六魂祭(イメージ)

※1：Internet of Things の略。自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出す

③ さいたま市としての解釈と「大宮」の役割

本市では、「対流促進型国土の形成」、「東京一極集中のリスク軽減」、及び「より洗練された首都圏の構築」といった国全体の方向性を踏まえながら、これらに係る社会経済情勢の変化に対応し、昨今の新たな動きを加味した、「大宮」の果たしていくべき役割を以下のように考える。

「東日本の玄関口」として、東日本全体の発展を牽引するという役割

大宮は、東北圏、北陸圏、北海道と直接つながる広域交通結節点であり、さらに首都圏広域地方計画で意義付けられている「運命の10年」と言われるこれからの10年の間に、北海道新幹線の延伸やリニア中央新幹線の開業、首都圏三環状道路等の高速道路網の概成、空港アクセスの改善等、大宮を取り巻くインフラの劇的な進展が図られることで、その拠点性はますます高まっていくこととなる。

こうした中で、東日本各都市・各地域のヒト・モノ・情報が大宮を介して相互に交流・連携し、イノベーション（新たな価値）の創出を誘発するような役割を大宮が果たしていくべきと考える。例えば、東北地方のあるまちの特産品と北陸地方の特殊な地場技術が大宮の場で融合し、新しい価値を創造する等、東日本各地に培われてきた個性（歴史・文化・産業等）をコラボレーションする、そのためのコーディネートを大宮が担い、スーパー・メガリージョン形成による波及効果により、日本全国へ、あるいは広く世界に新しい価値を大宮から発信していくべきと考える。

さらにこれを実現するためには、東口の交通基盤の再編・強化や駅機能の高度化等、交通結節機能をより充実させるとともに、東日本の中核都市として、こうした新たな連携を促進させるため、対流拠点機能の強化とビジネス機能の集積を図り、東日本各地からの集結・交流機能を高めていくことが不可欠である。

東京一極集中に伴う日本経済の災害リスク軽減とともに、
安心・安全な市民生活を持続させる役割

大宮は、広域交通特性に優れ、自然災害にも強いという「強み」を有していることから、リスク分担による強靱な国土づくりを進めていく上で非常に重要な役割を担っている。すなわち、日本経済の中核を担う企業が東京に一極集中しているという現状がある中、国際競争の最前線としての「東京」に対する、東日本ブランチ（支社）が集まるビジネス拠点を大宮が担うことにより、日本経済全体のリスク分担を図ることが考えられる。また、首都直下地震発災時には、さいたま新都心と連携して首都圏機能のバックアップ拠点として機能するとともに、日本海側にも太平洋側にもつながっているという立地特性から、リダンダンシー^{※2}の上での拠点機能を担っていくべきと考える。

一方、大宮は、防災上、重要な役割を担っているにも関わらず、「弱み」である狭隘な道路や老朽化建物が東口周辺地区を中心に広がっており、大地震や大火等の大規模災害への備えが十分に図られているとは言いがたい。このため、さいたま市の都心として、拠点機能を保持し続けられるよう防災性の飛躍的な向上を図るとともに、安心・安全な市民生活を持続させる役割を果たしていくべきである。

多彩な地域資源や空間の良さを活かしながら、

これからの働き方やライフスタイルを先導・提案し、市域全域に波及させるという役割

労働力人口の減少に対応した生産性の向上を図っていくためには、新しい働き方や多様なライフスタイルを実現できるまちのあり方を模索していく必要がある。

大宮は、さいたま市の商業・業務機能が集積する都心というだけでなく、氷川神社や大宮盆栽村、鉄道博物館等、歴史や文化を感じる多彩な地域資源が集結し、氷川参道や見沼田圃といった自然の豊かさを近くに感じられる環境を有している。また大通りから一步入れば、居心地の良い路地に魅力的な路面店が建ち並び、ワクワクするような空間をも兼ね備えている。このことは、ビジネス一辺倒ではない、あるいは東京都心になく「ゆとり」ある都市環境を大宮が有しているということであり、この強みにより一層磨きをかけていくことにより、新しい発想や斬新なアイデアが次々と浮かぶようなクリエイティブなライフスタイルやビジネスシーンにつなげていけるものとする。

また大宮は、東日本ブランチの集積と同時に、都心居住機能をベストミックスすることにより、毎日通勤電車に揺られ東京都心まで通勤しなくとも、時と場所に縛られない働き方を先導し、職住近接のワークライフバランスが実現できるまちを目指していくべきと考える。

さらに、このような魅力ある働く場であり住まう場の創出にあたっては、まちの特徴や良さを顕在化させ、生かすことが重要であり、東口と西口、あるいはさいたま新都心等との回遊性をこれまで以上により一層高め、相互の連携を強化することによって、深みと広がりのある都心を形成し、広くさいたま市全域の対流を促進していく役割を担うべきである。

④ 役割の実現に向けて

これら大宮が果たすべき役割を実現していくためには、大宮の「強み」を最大化させると同時に、大宮の「弱み」の課題解消を図っていく必要がある。

特に、大宮グランドセントラルステーション化構想では、区域の限られたターミナル街区に、様々な都市機能や交通機能を複合的に導入していく必要があることから、駅周辺まちづくり、交通基盤整備、駅の多岐に渡る取組を「三位一体」で、かつこれらに関わる市民、事業者、行政の三者が密接に連携して取組を行っていくことが必要不可欠である。

※2：「冗長性」、「余剰」を意味する英語であり、国土計画上では、自然災害等による障害発生時に、一部の区間の途絶や一部施設の破壊が全体の機能不全につながるよう、予め交通ネットワークやライフライン施設を多重化したり、予備の手段が用意されている様な性質を示す。

4) 整備方針(案)

大宮駅グランドセントラルステーション化構想の整備方針(案)

《整備方針① ビジネス》

地の利を活かし、東日本の拠点としてのビジネス機能を集積させます

⇒国内外企業の本社・支社機能や研究開発機能等、**拠点的な業務機能の誘致**に取り組んでいくとともに、ビジネス環境の向上を図るため、オフィス、ホテル、会議室等の供給を促進していきます。さらに、業務機能の集積を後押しするための規制緩和、財政支援、税制支援等を検討していきます。



大宮鐘塚 A 地区第一種市街地再開発事業

【主な企業立地実績】

- カルソニックカンセイ(株) 【研究開発センター・本社】
- クラリオン(株) 【本社・技術センター】
- (株)ロッテ 【新開発研究棟】
- 藤倉ゴム工業(株) 【エンジニアリングセンター】
- 高田製薬(株) 【本社】
- アサヒロジスティクス(株) 【本社】
- AGS(株) 【AGS ビル】
- (株)ADEKA 【研究棟】
- パシフィックシステム(株) 【本社】
- 第一倉庫冷蔵(株) 【本社】
- リンテック(株) 【研究開発本部研究所先端技術棟】
- オリジン電気(株) 【本社オフィス・本社事業所】

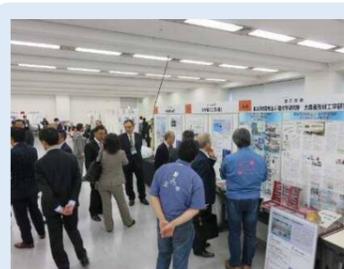
《整備方針② 東日本連携》

新たな価値を創造する対流拠点機能を強化し、東日本の主要都市間と共存・共栄を目指します

⇒東日本のヒト・モノ・情報の交流や企業活動の活発化を促進し、広域周遊観光ルートの玄関口として、東日本連携を促進する**対流拠点機能を確保・強化**するとともに、連携を踏まえた企業立地等の促進を図ります。



東日本連携・創生フォーラム in さいたま



BIZ SAITAMA さいたま市産業交流展



次世代自動車・スマートエネルギー特区

《整備方針③ 商業》

地元商店や路地空間の魅力、拠点的な商業集積等を活かし、商都大宮を再生します

⇒各地区が相互に協力・連携しながら、個性ある路面店・飲食店や路地空間の賑わいの創出、先進的・都会的な商業施設のリニューアル等を通して、**商業機能の拠点性を再生**していきます。



商業機能の導入(イメージ)



商業機能の導入(イメージ)

《整備方針④ 地域コミュニティ》

都心の便利さと緑の近さがコンパクトにミックスされた上質な住環境を地域で育成します

⇒ターミナル駅を擁しながらも自然・歴史を近くに感じることができる**大宮らしい都心居住を提供**すると同時に、地域によるまちづくり活動、祭りやイベント等の活動の活発化を促進していきます。



住宅機能の導入(イメージ)



中山道まつり

◀整備方針⑤ 公共交通・他モード連携▶

東日本からの集結・交流機能をも高める、更なる交通結節機能の充実を図ります

⇒各地区と協力しながら、便利・快適、安心・安全な交通基盤への再編・強化を図るため、駅前広場等において必要な広さと機能を確保していきます。また、様々な支援制度を用いながら大宮駅の機能強化を図りつつ、広域交通ネットワークの強化も目指します。



広域交通結節機能（イメージ）



交通基盤強化（イメージ）



イベントができる歩行者空間
（博多駅）



公共交通優先の広場
（姫路駅）

◀整備方針⑥ 歩行者ネットワーク・たまり空間▶

駅からまちへ人を惹きつけるとともに、まちからまちへの回遊機能を強化します

⇒「大宮のまちに降りてみたい」と感じられるよう、鉄道等の乗換客をまちへ誘導する工夫を図っていきます。また、まちなかを快適に回遊できる歩行者中心の移動環境の基盤を整えていきます。

大宮アルディージャ
(NACK5 スタジアム)



写真提供 鉄道博物館

鉄道博物館



氷川神社



まちへの視点場づくり
（イメージ：竜王駅 山梨県）



さいたまカーフリーデー



フリーマーケット大宮



キャッスルビュー
（イメージ：姫路駅）

《整備方針⑦ 道路ネットワーク》

おもてなし歩行エリアを実現するため、駅周辺に流入する自動車交通を抑制します

⇒歩行者中心の人に優しい移動環境を整えるとともに、駅周辺における自動車の交通混雑を緩和するため、ハード・ソフトの両面から自動車ネットワークの構築を図っていきます。



自動車の流入抑制（姫路駅）



荷捌き等の共同集配
（福岡市）
※資料：国土交通省



（町田市）
※資料：町田市まちづくり公社

《整備方針⑧ 景観・環境》

大いなる宮居としての風格ある駅前景観を形成します

⇒まちを訪れる人の記憶に残り、大宮を象徴するようなまちなみやデザインを意識して、最先端技術が備わった環境に優しい空間を創出していきます。また、大いなる宮と共生する自然エネルギーを活用していきます。



駅の玄関口としての顔づくり
（イメージ：金沢駅）



（イメージ：大阪駅）



水川参道

《整備方針⑨ 防災》

首都直下地震や都市型災害に対する強靱性を備えたまちづくりの推進を図ります

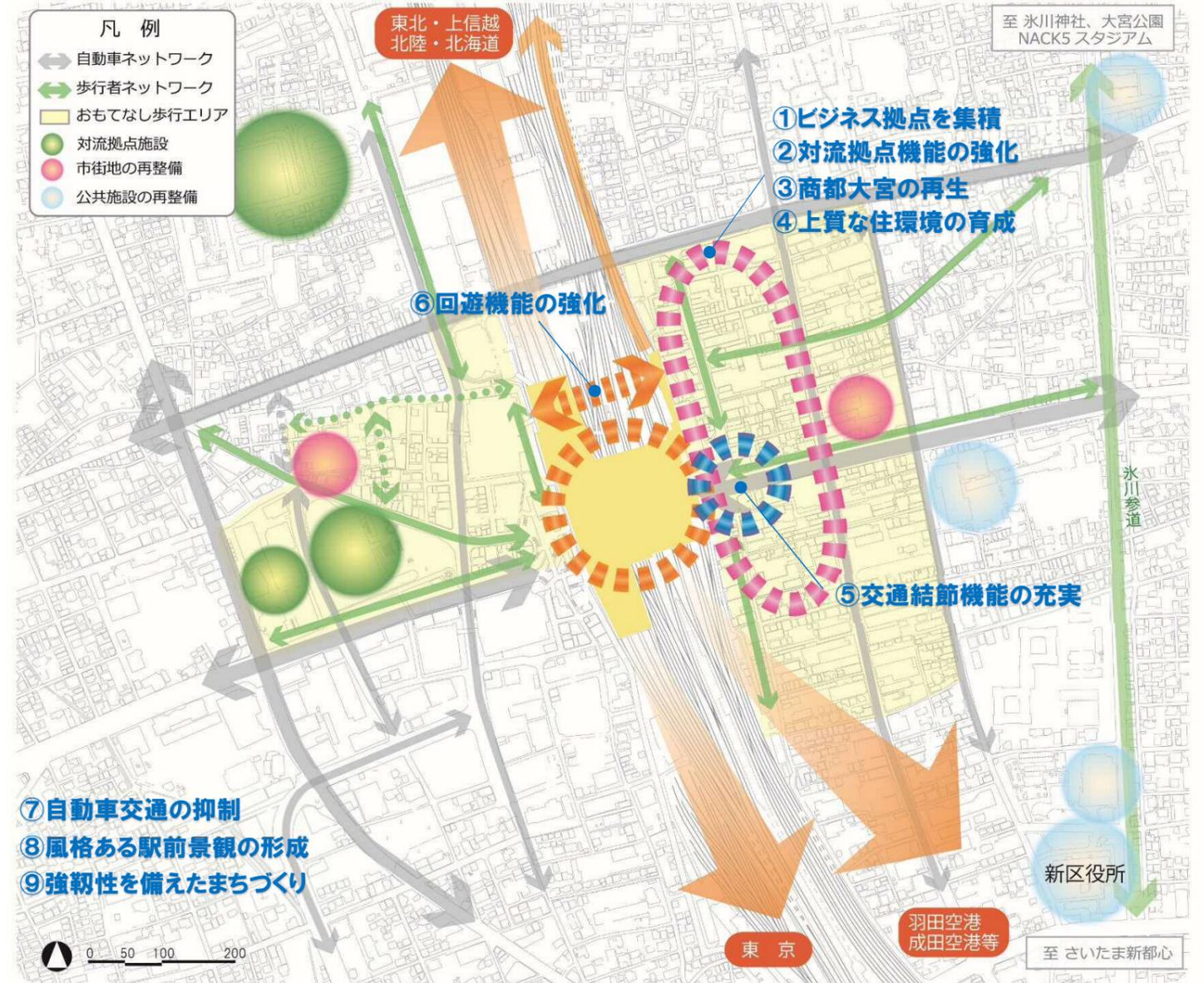
⇒都市機能の更新と併せて防災への強靱性を高めるとともに、災害時には多数の駅利用者や来訪者等の帰宅困難者が想定されることから、大規模災害に備えた駅及び駅周辺としていきます。



大宮駅周辺帰宅困難者対策訓練の様子
（H25年3月）

大宮駅グランドセントラルステーション化構想の整備方針(案)

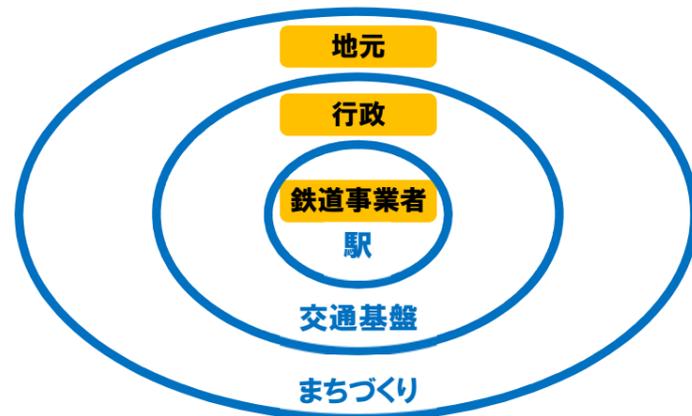
① ビジネス	地の利を活かし、東日本の拠点としての ビジネス機能を集積 させます
② 東日本連携	新たな価値を創造する 対流拠点機能を強化 し、東日本の主要都市間と共存・共栄を目指します
③ 商業	地元商店や路地空間の魅力、拠点的な商業集積等を活かし、 商都大宮を再生 します
④ 地域コミュニティ	都心の便利さと緑の近さがコンパクトにミックスされた 上質な住環境を地域で育成 します
⑤ 公共交通他モード連携	東日本からの集結・交流機能を高める、更なる 交通結節機能の充実 を図ります
⑥ 歩行者ネットワーク たまり空間	駅からまちへ人を惹きつけるとともに、まちからまちへの 回遊機能を強化 します
⑦ 道路ネットワーク	おもてなし歩行エリアを実現するため、駅周辺に流入する 自動車交通を抑制 します
⑧ 景観・環境	大いなる宮居としての 風格ある駅前景観を形成 します
⑨ 防災	首都直下地震や都市型災害に対する 強靱性を備えたまちづくり の推進を図ります



三位一体による構想の推進

多くの駅での進め方

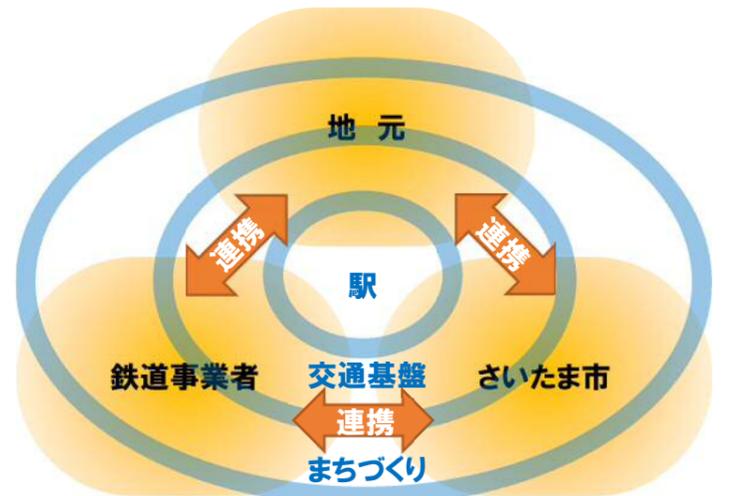
○「駅」は鉄道事業者、駅前広場等の「交通基盤」は行政、「まちづくり」は地元が、それぞれの責務の中で整備、管理



それぞれの整備・管理区分に応じて個別に対応

大宮駅での進め方

○大宮駅では「駅」「交通基盤」「まちづくり」の多岐に渡る事業を同時に実現していくことが必要
 ○そのためには、密接な関係性を有する空間面・時間面・事業面を一体的に捉えることが必要である
 ○従って、地元、市、鉄道事業者が三者が密接に連携し、各々の整備・管理区分にとらわれない“連携”を基本とする必要がある



整備・管理区分にとらわれず「三位一体」で目標を実現